

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所の理念だけでなく、職員で考えた「みんなで必ず守ること」を掲げているが、地域密着型サービスとなってから理念の見直しを行っていない。</p>	○	<p>職員が、地域密着型サービスの役割を十分理解したうえで、理念を追加するようにしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の具体化に向けて、職員全員で行動指針を作成し、実践している。また、新人研修などでは、文書化した方針を提示し、職員教育を行っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方には、今まで暮らしてきた環境や関わりの大切さを話し、入居前の生活が継続できるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>理念の見直しを行ったうえで、運営推進会議を通して伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物に出かけ、挨拶をしたり、馴染みになった近隣の方と気軽に話をする機会がある。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の文化祭やお祭り、井手ざらえ等に参加している。また、子ども会が慰問に来てくれる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人職員が、認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトに登録し、認知症の理解のため活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目標を知り、全職員で評価をしている。外部評価はミーティングで報告し、改善への具体案の検討、実践に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第2回が終了したばかりであるが、事業所の取り組みや具体的な課題について、話し合いを行っている。また、現メンバーより、参加メンバー募集の声かけをしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターが開催する連絡会に出席し、情報収集や情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を必要とするケースがあり、管理者は理解しているが、他の職員の理解は不十分である。成年後見制度についても、同様のことが言える。	○	理解できる管理者がスーパーバイザーとなり、勉強会の予定がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的なストレスを抱き続けられないよう、一人ですべてを抱え込まない、また、自らを追い込まないよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明している。解約の場合、家族には、十分な説明と今後の行き先について話し合い、理解、納得してもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、真の思いを察する努力をし、リーダー会で取り上げ、話し合いをしている。また、運営推進会議において、利用者代表が意見を言えるよう支援している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話などで、利用者の近況報告をすると共に、状態変化が見られた時は、細かく報告するよう努めている。暮らしぶりについては、写真などでも分かるようにしている。金銭については、出納簿にて随時確認してもらい、必要に応じてコピーし、手渡している。また、家族会を利用し、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見ポストを設置し、公的申立機関に苦情申立先があることを、契約を結ぶときに話している。意見、不満、苦情は、ユニット職員と話し合い、解決することが多いが、難題については、リーダー会などで話し合っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、リーダーが聴き、リーダー会に取りあげるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出など、状況にあったシフトを組んでおり、必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。職員の病気など、急な休みにも対応できるよう、人員の確保に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニット職員を固定化し、馴染みの関係が継続できるように心がけている。新しい職員が入る場合は、必ず利用者で紹介している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年順次、認知症介護実践者研修を受けている。他施設研修、講演会の案内を随時行い、時間内に参加できるよう配慮している。研修後は、その内容をミーティングの場で発表している。また、研修を受けた職員が、講師役となり勉強会を行い、当ホームでできることは実践している。報告書の書式を決め、まとめやすくし、全員が閲覧し、確認できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所との意見、情報交換は、電話や訪問時に行っている。地域の事業所ではないが、他グループホームへの見学、相互研修を通じ、交流がある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	雇用管理面では、介護能力の向上に向けた研修、認知症理解を深める研修に参加したり、緊急時対応体制の整備、勤務体制の要望等を聞いている。また、リーダーは悩みの聞き役となり、ストレスをためない支援をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	何度も現場に顔を出し、利用者や過ごしたり、職員の業務状況を把握している。持てる力を活かせるよう支援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の困りごと、何を求めているか等を聴き取ったり、本人の話したいことを受け止め、理解しようと努めている。また、ホームの見学をし、雰囲気を感じ取ってもらい、少しでも不安の解消に結びつくよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの話をよく聴き、求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか話している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況、思いなどを確認し、専門医への受診アドバイスや介護サービスのみでなく、医療を含め、他にも利用できるサービスの説明や連絡等を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接から入居までの期間が短く、暫定の介護計画作成はしているが、利用者の状況や反応、家族との話し合いから入居1か月後に見直しを行い、利用者にあったサービスになるよう努めている。また、入居日には家族に宿泊してもらい、安心できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所仕事や畑仕事の好きな方と、協働の喜びを分かち合えるよう、声かけの工夫をしている。職員が利用者に相談する場面を持つことで、人生の先輩としての意見やいたわりの言葉をかけてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、利用者の近況を伝え、情報の共有に努めている。また、認知症の理解が得られるよう家族に働きかけ、一緒に対応を考えている。遠方の家族にも近況報告を行い、本人を支えるため、家族に相談している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係が希薄である家族には、職員が家族の思いを受け止めることで心を開き、月に1～2度ではあるが、面会や電話をしてもらえるようになった。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援の中で、利用者が自宅へ帰宅するようになり、近所の方がホームに訪ねてくれるようになっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役となり、気の合う利用者が過ごせる場面を作ることで、友達関係ができている。心身の状態や気分、感情で日々変化することがあるので、注意深く見守るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体的な都合で、当事業所を利用できなくなった利用者の次の利用施設へは、面会や見舞いに行っている。また、利用施設の相談員を通じて、情報を得るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が困難な方の場合は、家族や介護者が、本人本位の視点に立ち、考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係者と馴染みの関係を深め、プライバシーに配慮しながら、情報の蓄積に努めており、本人の全体像を知る取り組みをしている。利用者のなかには、個別支援による職員と、自宅への訪問や馴染みの場所に行くことで、近所の人から昔の暮らしぶりが聞けたり、本人の言葉で、昔を思い出し話してもらうことができている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握、理解に努め、持てる力を十分に発揮できるよう、職員間で話し合う機会を持つようにしている。	○	センター方式を用いて、生活、心理面のアセスメントを始めている。本人のできる力、わかる力を見つけ、その人らしく生活できるように支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の考え方、職員の気づき・アイデア、家族の意向・アイデアを反映し、個別の介護計画作成に努めている。これまで家族の意向やアイデアを反映することが多かったが、本人の生の声を聴くことが大切であることを話し、反映できるよう取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをするとともに、現状に即していないと思われる場合、また、本人・家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表にて、バイタル・食事量・排泄などの身体的状況を記入し、個人記録にはサービス内容のチェックと、職員の気づきや利用者の状態変化を記入し、情報の共有をしている。これらを基に、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	内科・歯科・皮膚科の往診や理容訪問があり、希望者は利用できる。本人、家族の状況に応じて、通院介助や外出支援・移送サービス・外泊支援などを行っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防・タクシー会社などの資源を活用し、安心・安全に生活できるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当ケアマネジャーと入居後の関わりは少なく、時々、職員が近況を報告する程度となっている。介護保険外のサービスについて把握できてないのが現状であるが、サービスそのものが少ないこともある。	○	介護保険外のサービスについては、情報の収集に努め、活用できるものを探していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの活動については、在宅サービスに対する協働の方が多く、介護保険施設グループホームへ入居してしまうと、施設側での対応のみとなるのが現状のように思われる。	○	運営推進会議を通して連携が図れるよう、ホームからも積極的に働きかけていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、あらかじめ家族と受診病院について話している。希望するかかりつけ医を継続してもらったり、新たに受診の必要のある場合は、家族と相談して決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない声かけや口調・態度に気をつけ、対応するように努めている。個人情報については、電話での問い合わせや来訪者には、本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている。	○ プライバシーに配慮した声かけ・態度については、職員同士が話し合うことができたり、自分の態度を振り返ることができるような機会が、常に持てるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定ができる人、できない人がいるが、できる人には希望を聞く場面づくりを行っている。	○ おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の小さなことから選ぶ場面を作っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れや業務のスケジュールはあるが、時間で区切らないようにしている。利用者のペースを崩さないように配慮しながら、できることはしてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った服装、外出時の身だしなみには気を配っている。月1回の散髪を利用し、本人の希望に沿えるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等は、利用者と共に、食事も同じテーブルを囲んで、楽しくできるよう雰囲気づくりをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、一人ひとりの嗜好物を把握しており、本人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、時間での声かけ誘導を行い、トイレでの排泄につなげている。また、日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツと使い分け、自立に向けた支援を行っている。	○	排泄行為が分からない方への対応方法を学んだり、専門医の受診を検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各々の好みの湯加減や時間帯を把握しており、ゆったりと利用者のペースに合わせて入浴できている。一人の職員が、脱・洗い・着せの一連の介助に入り、不安感を解消している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない人については、24時間シートを活用し、生活リズムの把握に努め、日中の活動を増やす等の対応をしている。自ら休息のコントロールのできない方については、体調に十分配慮し、日中休息を取れるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、その人に合った仕事をしてもらい、感謝の言葉を伝えている。	○	一人ひとりに合った楽しみや役割を把握し、そのような場面に活かせるよう支援していきたい。ドライブや外食、買物等で気晴らしをする回数を増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心する方には、家人に紛失の可能性を十分理解してもらったうえで、持っていてほしい。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等、外出する機会をなるべく多くするよう心がけている。	○	個々の行きたい場所を把握し、その人の習慣や楽しみごとに合わせて、外出できるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアとして、帰宅支援を行っている。家族にもお願いし、面会時に外出してもらえるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚と話ができるよう電話をしやすい雰囲気づくりや、他者に聞かれないよう落ちつける場所を提供し、家族が、ホームに電話しやすい雰囲気を作っている。電話をかけてくる家族が増えてきた。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時はお茶を出したり、居室内に椅子を持ち入れる等、過ごしやすいよう配慮している。意思疎通の困難な方には、職員が間に入り会話を持つ等、配慮している。帰宅支援時、近所の方と話をする機会を作り、気軽に訪問していただけるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・安全委員会を設置し、拘束は絶対しないよう取り組んでいる。5つの基本的なケアを徹底するよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠しており、自由に出入りができる。外に出る可能性や一人ひとりがどこにいるかを把握すると共に、一人で出かける方は呼び止めず、そっと見守りをするよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、フロアーにいる職員が見守っている。夜間は個々の状態に合わせて、何度も巡回を行う等の対応をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めているが、利用者の状態に合わせて、場所の変更を行うこともある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりどのようなリスクがあるか話し合い、知識を学んだり対応を工夫し、事故防止に努めている。また、ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、リスクカンファレンスの開催やケアプランに反映する等、その都度検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各ユニットにマニュアルを置き、年1回消防署に依頼し、救急法講習会を開催している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難マニュアルを作成している。火災に対する避難訓練は、年間計画を立てて実施している。年1回は消防署に依頼し、訓練を実施している。	○	地震・風水害についての細かいマニュアルは作成していないので、検討を行っていききたい。また、近隣への要請についても、働きかけていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりについて把握しており、リスクの高い場合は、家族に対応策を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子があれば、バイタルサインのチェックや記録を残し、申し送りで伝えることで、職員がいつも以上に注意し、状態を見ている。気になる症状であれば、医師に相談して指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量については、個人記録に記入し、内服内容はいつも目にする健康チェック表裏面、薬箱表に貼り、確認している。変化は個人記録に残し、医師に伝えている。内服の変更があれば、申し送りノートを活用し、全員に周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品を取り入れ、料理の工夫をしたり、散歩や体操・家事活動などで体を動かし、自然排便ができるように努めている。緩下剤を使用する場合は、医師に相談しながら、個々に合うものや量の調節をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施により、清潔は保持できている。口腔内の異変などには、すぐ上申できるシステムを取っている。	○	自身の歯が残っている方、自立で歯磨きができる方の状況把握にもっと努めていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況チェックを毎日行い、食事量に応じて、個別に支援している。水分摂取量の少ない人には、努めて声かけを行っている。利用者の病状に合わせ、特別食は用意していないが、できる限り工夫している。一日の栄養摂取総量が特に少ない人は、チーズ等の補助食品を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。季節的に情報収集をし、早期発見・予防に努めている。また、その都度、個々の状態に合わせた対応をしたり、インフルエンザについては、利用者・職員共に、予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎日消毒し、調理器具・冷蔵庫・台所周りにはこまめに掃除をしたり、熱・アルコール消毒を行い、衛生管理に努めている。食材については、仕入れ先に新鮮で安全なものを求めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内は、利用者がスムーズに出入りしやすいようスペースをとっている。立ったままで靴を履くのは危険なので、椅子を置く等し、安全性にも気をつけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内装飾は、季節に応じて変えている。リビングが広いため、間仕切り等をして、休息できる所、食事をする所と分けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに、大・小2か所のくつろげるスペースを作り、気分や状態に合わせて利用できるようにしている。また、死角になるか所も作るようにしている。利用者の心身の状態を、常に把握するよう心がけ、その都度、共有スペースの配置に気を配っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや鏡台など、一人ひとりの生活スタイルに合わせて用意できるよう、本人や家族と相談しながら環境づくりを行っている。また、仏壇・写真など、大切なものを持ってきてもらい、安心して過ごせるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアでは、冷暖房が一か所にだけ効かないよう、高い位置に扇風機を取り付け、空気を循環させている。掃除の時は、窓を開け換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体の状態に合わせ、椅子の高さや背もたれ等を工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって何が分からないのか、どうすれば分かるかを、常に職員間で話し合っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に椅子を置き、外気浴を楽しんでいる。また、ウッドデッキで外気浴や歌を歌うなど、集いの場所になっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別支援に力を入れて取り組んでいる。家族に声かけ、可能なら自宅の様子を見に帰っている。また、家族が遠方のため独居の方であれば、職員と自宅に帰るといように、帰宅願望の軽減や本人の安心に結びつくよう配慮している。自宅では掃除や草抜きをしたり、また、近所の方に会ったりしている。近所の方からは、昔の暮らしぶりが聞けたり、本人の言葉で昔の思い出話ができ、暮らしの把握ができる。

これからも、地域とのつながりが継続できるよう支援していきたい。